

ネギ葉枯病(黄色斑紋病斑)の発生特徴と防除対策

- 1 発生特徴：9月上旬に褐色斑点病斑が発生していた圃場では、10月に黄色斑紋病斑が多発する傾向がみられた。また、7月下旬にべと病が発生していた圃場では、その後に褐色斑点病斑および黄色斑紋病斑の発生が多くなった。
- 2 防除対策：8月下旬からの適切な薬剤防除により、9月上旬以降の褐色斑点病斑の発生を防ぐ。

1 背景とねらい

ネギ葉枯病の症状には、黄色斑紋病斑や褐色斑点病斑並びに葉先枯れ病斑がある(写真1~3)。そのうち、黄色斑紋病斑は、出荷部位に発生することから近年問題となっており、葉身部や葉先に発生する褐色斑点病斑および葉先枯れ病斑が伝染源となって発生することが知られている。また、褐色斑点病斑は、べと病の発生圃場で広く発生するとされている(文献1)。

そこで、黄色斑紋病斑の防除対策を講じるため、発生予察調査データをもとに、褐色斑点病斑やべと病の発生と黄色斑紋病斑の発生との関係について検討した。

2 黄色斑紋病斑の特徴

- (1) 病徴：主に中心葉にモザイク様の黄色斑点が生じ、症状がひどい場合には葉色が全体的に黄色くなることもある(写真1)。
- (2) 発生時期：県中南部では9月上旬頃から発生しはじめ、収穫期に近くなるほど発生程度が高くなる。



(写真1) 黄色斑紋病斑



(写真2) 褐色斑点病斑



(写真3) 葉先枯れ病斑

3 褐色斑点病斑の時期別発生状況

ネギ葉枯病の褐色斑点病斑は、ネギ黒斑病の病斑と酷似しており、肉眼では判別が困難であることから、7月上旬以降、時期別に葉身部の病斑を採取し、検鏡により分子子を確認して判別した。

その結果、県中南部の秋冬ねぎ圃場(主に10月どり作型)では、8月下旬以降は葉枯病菌が優占しており、9月以降は、ほぼ葉枯病菌のみがみられた(図1)。

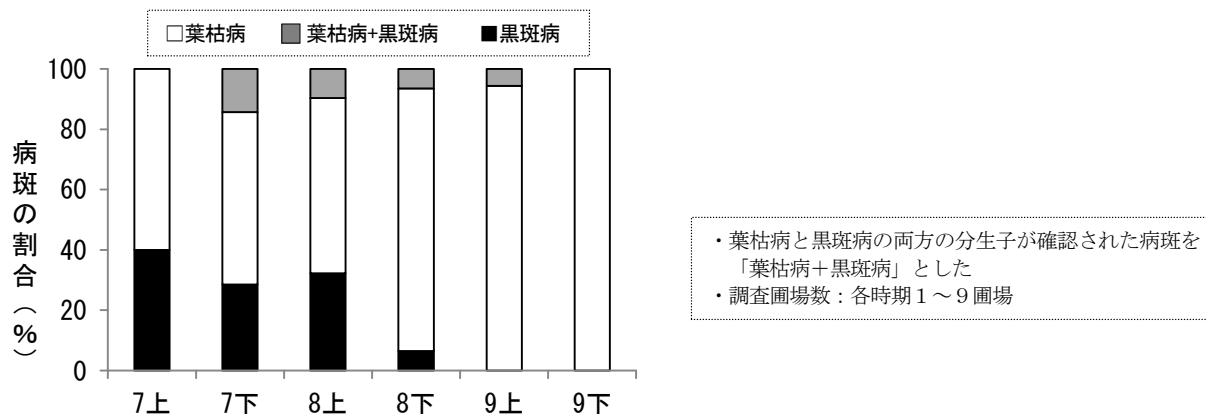


図1 葉枯病(褐色斑点病斑)と黒斑病の時期別発生割合(H30、R1)

4 褐色斑点病斑と黄色斑紋病斑との関係

- (1) 10月に黄色斑紋病斑が多発した圃場では、9月上旬から褐色斑点病斑が発生し、その後は発生程度が高い圃場もみられた(図2)。褐色斑点病斑は、20℃以下で発生が多くなるとされており(文献1)、本県では9月上旬から発生が多くなると考えられる。
- (2) 9月上旬に褐色斑点病斑がみられた圃場では、10月に黄色斑紋病斑が多発する頻度が高かった(図3)。

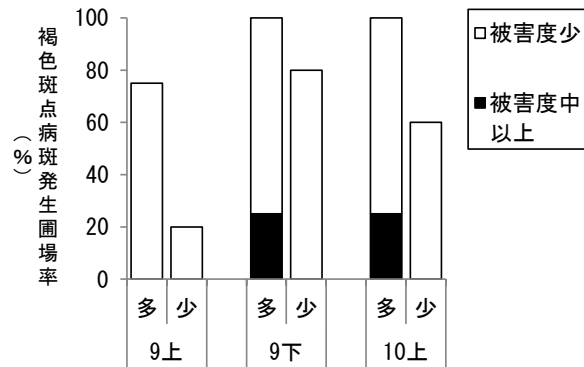


図2 10月の黄色斑紋病斑の多少別の褐色斑点病斑発生圃場率 (H30)

※多: 10月の黄色斑紋病斑発生株率10%以上 (N=4)、
少: 10月の黄色斑紋病斑発生株率10%未満 (N=5)

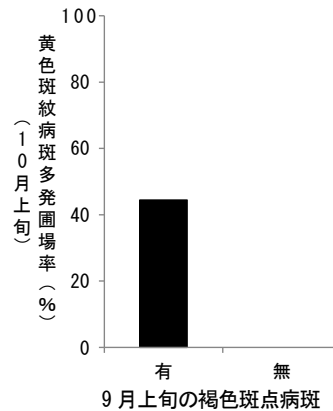


図3 9月上旬の褐色斑点病斑の有無と10月の黄色斑紋病斑の多発との関係 (H30)

※黄色斑紋病斑多発圃場: 10月の発生株率10%以上

5 べと病と黄色斑紋病斑の発生との関係

- (1) 令和元年は7月下旬にべと病が広く発生した。べと病が発生した圃場では、9月上旬に褐色斑点病斑がみられる頻度が高く(図4)、10月には黄色斑紋病斑が多発した(図5)。
- (2) べと病の病斑部には葉枯病菌が二次的に感染するため(文献1)、褐色斑点病斑や黄色斑紋病斑の発生が多くなったと考えられる。

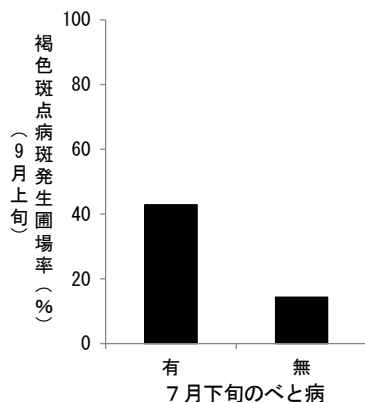


図4 7月下旬のべと病の有無と9月上旬の褐色斑点病斑の有無 (R1)

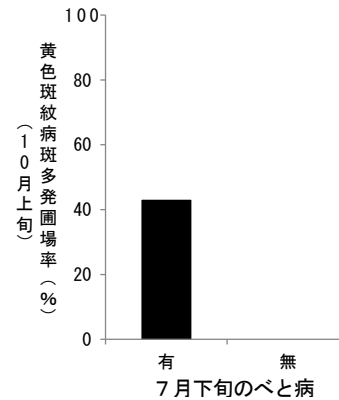


図5 7月下旬のべと病の有無と10月の黄色斑紋病斑の発生 (R1)

※黄色斑紋病斑多発圃場: 発生株率30%以上

6 ネギ葉枯病(黄色斑紋病斑)の防除対策

10月の黄色斑紋病斑の多発を防止するためには、葉枯病菌の感染が多くなる8月下旬~9月上旬からの適切な薬剤防除により、9月上旬以降の褐色斑点病斑の発生を防ぐ。また、べと病を対象とした薬剤防除を実施し、褐色斑点病斑の発生を防止する。

7 引用文献

- (1) 三澤 (2012) ネギ葉枯病の発生生態と防除に関する研究 道総研農試報 132: 1-90